

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400407		
法人名	特定医療法人 富田病院		
事業所名	高齢者 グループホーム あねもね 戸倉ヶ丘 1階ユニット		
所在地	北海道 函館市 戸倉町15番10号		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400407-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御本人様がこれまでの暮らしで行ってきた食事の支度等の生活上の役割や、園芸等の家庭での出番を無理の無い程度に続けて頂けるよう、又家庭での茶の間の様な雰囲気や、ゆったりとした暖かい生活をして頂けるよう職員一同心掛け「笑顔あふれる皆の家」を目指しております。また今年度はコロナウィルスの影響で外出の機会が無くなってしまった為、施設内での楽しみを増やす工夫を心掛けました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあねもね戸倉ヶ丘」は函館市の北に位置し、函館山を臨む高台の閑静な住宅街に平成25年に開設した事業所で、鉄骨2階建ての建物は周囲の環境に溶け込んだ造りの静かな佇まいである。近くには小・中学校や高等専門学校、大学などが散在している。玄関を入るとすぐに雄雛と女雛の木目込みの雛人形が目に入ってくる。ホールには地域の方から受け継いだ華やかなひな段のお雛様を飾って、季節感や家庭的な雰囲気を演出している。当事業所の特筆すべき点は医療機関との連携体制の充実と職員育成方法の良さと人間関係の良好さである。運営母体が医療法人であり、内科、精神科、整形外科など複数の科と連携を密に図り、医師間で情報が共有されている。定期的な往診や毎週看護師による健康管理、緊急時対応など24時間、安心して納得が行く適切な医療を受けられる体制が整えられている。管理者は自らの知識と智慧、技術を全職員に余す事無く伝承し、どんな場面でも冷静に素早くて確かな判断と対応が出来る様に、しっかり見守りながら「導き」、職員一人ひとりの優れた点を「褒めて」、やる気と責任感を引き出している。また、職員の相談事や悩み事にも耳を傾け、子供の行事に合わせて勤務を調整したり、ストレス解消も兼ねた打ち合わせを多くして、働きやすい環境作りに努め、職員の気持ちを一つに纏め、そのチームワークの良さを持って、利用者の穏やかで、心弾む日が一日でも多くあることを願いながら、日々歩み続ける事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示して共有し実践している。また理念についての勉強会等で再確認をしている。	「笑顔あふれる皆の家」の理念を基に、各ユニットで年間目標を定め、勉強会で話し合い具体的なケアにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等で近隣のお店からケーキを購入したりしている。また、運営推進会議で町内会長様から意見ももらい情報交換している。、	感染症対策のため、近隣住民と日頃の気軽な交流は出来ていないが、馴染みのケーキ屋を利用したり、すし屋から出前を取るなど、様々な工夫をして地域の方々との関係が途切れない様に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前迷子の高齢者を保護し、警察官に引き継いだ。(後日町内ではないが近隣の方であったとの報告が警察よりあった)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の生活の様子を報告し、御家族様との情報交換を行っている。	感染症対策のため書面会議となっているが、事業所は意見や要望を聞く為の様式を作成し、案内状に同封して情報に収集に取り組み、家族や町内会長、地域包括支援センターから多岐にわたる情報を得ている。表出した意見や要望は真摯に受け止め、次回の会議案内に写真や資料を添えて報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や業務に関する相談を通じて協力している。	介護保険更新時に市の担当職員が来訪して本人と面接し、また、おむつ代の助成申請時や生活保護の利用者の医療券(受診券)申請時には事業所から出向いて行い、連携を密にしている。ケースワーカーも定期的に来訪して顔見知りの関係となっていて、協力体制をしっかりと築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者本位のケアを実践している。内部研修を2回行い参加できなかった職員へも周知徹底している。	身体拘束廃止委員会は毎月勉強会を行い、それを教育委員会が纏めて、全職員で共有している。報告書や資料は身体拘束廃止マニュアルと共に、いつでも自由に閲覧できる様に休憩室に保管して理解を深め、また、鈴などを活用して事前に転倒防止対策を立て、拘束や抑制の要らないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	御家族様及び職員間で情報交換を行い、虐待及び虐待と思われる介護をしない事を心掛けている。また教育委員会で勉強会を開いたり、研修への参加を積極的に行っている。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談業務を担う職員を窓口とし、相談があった場合は支援している。また研修への参加を積極的に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を利用している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様に電話で生活の中で困っている事が無いとお聞きしたり、運営推進会議を利用して御要望を伺ったりしている。	感染症対策で運営推進会議が書面開催となったことで、今までになく家族や町内会長、地域包括支援センターから様々な意見や要望が出され、日々の食事やレクリエーションの様子を献立表や写真を添えて、詳しく報告できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングや合同ミーティングを利用している。アンケートや個人面談等も行うようにしている。また普段の業務の中でも情報交換をしている。	管理者は業務内容に係わることやプライベートな相談にも乗り、日頃から職員とコミュニケーションを密に図り、ストレス解消やモチベーションアップにつなげている。人事考課を含めた個人面談や研修会でも意見を聞き、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションを図り、個々の能力を見極めアドバイスしている。職場環境についても改善出来るものはしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加、委員会活動等を通し知識を共有し深めるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと情報交換を行っている。 (道南グループホーム協会Bブロック会議)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中で、困っている事が無いか伺っている。手を握る等コミュニケーションを取っている。顔を合わせる時には、常に挨拶を忘れないように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は事前面談を行い、御家族様並びに利用者様の生活状況を聴き、どのような介護を望まれているのかをケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は事前面談を行い、御家族様並びに利用者様の生活状況を聴き、待機期間がある場合は他のサービスの利用を提供し検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や食事作り等、在宅と同じ様な生活が出来るよう場面を作り、職員が同居者の様な関係でいられるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアに対して御家族様に相談したりしている。入居者様が職員に言えない事を御家族様に聞いて頂いたり、より快適な生活をして頂く為に、御家族様と一緒にケアに当たっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様と連絡を密に取って御家族様と入居者様で電話連絡している。	感染症対策で面会や外出は少なくなっているが、家族と電話でコミュニケーションをとる機会が増えている。理・美容は職員が利用者と相談しながら行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでテレビ鑑賞やレクリエーション、調理等を通して、入居者同士が顔見知りの関係を作れるよう促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況を電話連絡等を通じ行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様や御家族様からの聴取や、生活歴から反映出来るようにしている。	「最期までここに居たい」「家族に迷惑をかけたくない」など何気なく発した思いを大切に、また、困難な場合は家族から聞き取り、連絡ノートに記録してユニットミーティングで共有し、ケアプランにも活かして希望が叶うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や御家族様からの聴取や、生活歴から反映出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のサービス提供の中から把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜ケアカンファレンスしモニタリングを行い、御本人に合ったニーズ目標に向かうよう、ケア担当者、計画作成担当者、介護支援専門員が現状に合った計画を作成するように努めている。	担当職員がアセスメントを含めたモニタリングをし、カンファレンスを行って、本人の楽しみや家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。状態が安定している時は8か月、長期は6か月、短期は3か月を目途に見直しをしている。状態の変化に応じて見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスシートを使用し、介護計画の見直し、日々の申し送り、ミーティング、各種委員会活動を通し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な社会資源を利用し、サービス提供は臨機応変に行うように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は地域との交流が困難だった為、町会長を通して地域との交流が途絶えないよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは定期的な往診、受診を通じ情報交換を行っている。	全員が富田病院をかかりつけ医としており、定期的な往診と緊急時対応、毎週金曜日には看護師による健康管理が行われて、24時間365日適切な医療が受けられる様に支援している。	

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を看護職員へ報告し、判断を仰ぎながら往診、受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族様との情報交換、病院からの病状の把握をしながら協力関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に応じて御家族様と共有する際に、施設として支援している。	重度化・看取り介護については、本人と家族の意向を基に家族と医師、事業所が話し合って決めることを主旨とした説明を契約時にして同意を得ている。職員は看取り介護の外部研修に参加して研鑽を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を通し行っている。また地域の他グループホームとの間に災害時の緊急連絡網を作り、連絡体制を築いている。(道南グループホーム協会Bブロック)	今年度は感染症対策で訓練マニュアルを基に避難経路と通報手順などの勉強会を行って確認している。設備会社から消火器の取り扱いの説明を直接受けている。終了後は反省会を行い、消防署から電話でアドバイスをもらい、結果を纏めて全職員で共有している。次回は3月に予定している。備蓄品は病院で一括保管して、災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。	トイレ誘導の際はプライドを損ねない様に、耳元で小声でさり気なく声かけをしたり、入浴介助も利用者が希望すれば同性介助としている。介護のどんな場面でも、礼節を重んじた対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。今、何を望んでいるのか入居者様の思いに沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、入浴を通し衛生的な身だしなみに努めている。また行事や外食等の際にはお化粧を手伝ったり、着ていく服を選んだり支援している。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々食いたい物の要望等を聞いたり、調理や食事、片付けを一緒に行っている。	献立は利用者と相談しながら、希望を採り入れて決めている。毎月の食事レクリエーション時は季節に合わせた弁当を取ったり、おやつも桜餅など節気を意識したものを用意して、楽しみや喜びを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量等を記録し、入居者様の嚥下状態に合わせ食事形態の工夫をしたり、食べ易い物へ変えたりして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また夜間の義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、入居者様一人一人の排泄パターンの把握や、声の掛け方のタイミングの工夫をし、排泄を定期的に促している。	昼夜とも自立している利用者は数名いるが、ほとんどの利用者はリハビリパンツやパッドを使用し、夜は1名ポータブルトイレを使用している。毎年、法人が実施するおむつの勉強会に出席して、あて方や選び方を習得して実践に活かしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し排泄パターンの把握に努め、食事や乳製品の飲み物の提供や体操などを行って頂きながら、予防に努めている。また、温罨法やマッサージ等も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の意向に即した入浴を心掛けている。	往診日と行事の時以外は毎日湯をはり、本人の希望を優先して入浴支援をしている。拒む利用者にはタイミング良く声かけをして、スムーズな入浴につながるように心がけている。利用者が同性介助を希望した時は思いを叶えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にとらわれずに休めるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師に指示及び、看護職員の指導等で服薬についての知識を深め、情報交換を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様との普段の会話の中から、好みの物事や昔楽しかった出来事、催し物の内容等をお聞きしたりして情報収集を行っている。又御家族様からの情報を元に支援している。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染予防の観点から、外出は控えている。	日常的に玄関先で日光浴をしたり、車椅子の利用者と一緒に10分程度、近所を散歩することを日課としている。家族が対応して受診する際には外食をするなど、気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウィルス感染予防の観点から、外出は控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙(はがき)、年賀状、広報誌等で近況を報告し出来るように努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓、清掃により衛生的な環境作りに努めている。また季節毎に飾りつけを行い、季節感を実感出来るように努めている。	居間兼食堂はオープンキッチンと一体化していて、利用者も家事に参加しやすい造りになってる。共有空間は陽射しも程よく、温度・湿度も高齢者に合わせて適切に管理し、換気にも配慮している。利用者と職員と一緒にお雛様を飾り、季節感や家庭的な雰囲気づくりを心がけている。2階の窓から見える函館山の景色の変化で季節の移ろいを感じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居様がリラックス出来る場所を確保出来るように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の愛着のある物を持ち込んで頂くよう促している。	居室には大容量のクローゼットが備え付けられているが、今までの生活環境を大切にして馴染みの家具や寝具、好みの物を持ち込み、居心地のよい部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理、清掃、洗濯等、御本人様が行える事は安全面を考慮しながら一緒に行えるように努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400407		
法人名	特定医療法人 富田病院		
事業所名	高齢者 グループホーム あねもね 戸倉ヶ丘 2階ユニット		
所在地	北海道 函館市 戸倉町15番10号		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400407-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御本人様がこれまでの暮らしで行ってきた食事の支度等の生活上の役割や、園芸等の家庭での出番を無理の無い程度に続けて頂けるよう、又家庭での茶の間の様な雰囲気や、ゆったりとした暖かい生活をして頂けるよう職員一同心掛け「笑顔あふれる皆の家」を目指しております。また今年度はコロナウィルスの影響で外出の機会が無くなってしまった為、施設内での楽しみを増やす工夫を心掛けました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示して共有し実践している。また理念についての勉強会等で再確認をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等で近隣のお店からケーキを購入したりしている。また、運営推進会議で町内会長様から意見をもらい情報交換している。、		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前迷子の高齢者を保護し、警察官に引き継いだ。(後日町内ではないが近隣の方であったとの報告が警察よりあった)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の生活の様子を報告し、御家族様との情報交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や業務に関する相談を通じて協力している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者本位のケアを実践している。内部研修を2回行い参加できなかった職員へも周知徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	御家族様及び職員間で情報交換を行い、虐待及び虐待と思われる介護をしない事を心掛けている。また教育委員会で勉強会を開いたり、研修への参加を積極的に行っている。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談業務を担う職員を窓口とし、相談があった場合は支援している。また研修への参加を積極的に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を利用している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様に電話で生活の中で困っている事が無いかお聞きしたり、運営推進会議を利用して御要望を伺ったりしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングや合同ミーティングを利用している。アンケートや個人面談等も行うようにしている。また普段の業務の中でも情報交換をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションを図り、個々の能力を見極めアドバイスしている。職場環境についても改善出来るものはしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加、委員会活動等を通し知識を共有し深めるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと情報交換を行っている。 (道南グループホーム協会Bブロック会議)		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中で、困っている事が無いか伺っている。手を握る等コミュニケーションを取っている。顔を合わせる時には、常に挨拶を忘れないように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は事前面談を行い、御家族様並びに利用者様の生活状況を聴き、どのような介護を望まれているのかをケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は事前面談を行い、御家族様並びに利用者様の生活状況を聴き、待機期間がある場合は他のサービスの利用を提供し検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や食事作り等、在宅と同じ様な生活が出来るよう場面を作り、職員が同居者の様な関係でいられるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアに対して御家族様に相談したりしている。入居者様が職員に言えない事を御家族様に聞いて頂いたり、より快適な生活をして頂く為に、御家族様と一緒にケアに当たっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様と連絡を密に取って御家族様と入居者様で電話連絡している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでテレビ鑑賞やレクリエーション、調理等を通して、入居者同士が顔見知りの関係を作れるよう促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況を電話連絡等を通じ行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様や御家族様からの聴取や、生活歴から反映出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や御家族様からの聴取や、生活歴から反映出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のサービス提供の中から把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜ケアカンファレンスしモニタリングを行い、御本人に合ったニーズ目標に向かうよう、ケア担当者、計画作成担当者、介護支援専門員が現状に合った計画を作成するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスシートを使用し、介護計画の見直し、日々の申し送り、ミーティング、各種委員会活動を通し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な社会資源を利用し、サービス提供は臨機応変に行うように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は地域との交流が困難だった為、町会長を通して地域との交流が途絶えないよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは定期的な往診、受診を通じ情報交換を行っている。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を看護職員へ報告し、判断を仰ぎながら往診、受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族様との情報交換、病院からの病状の把握をしながら協力関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に応じて御家族様と共有する際に、施設として支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を通し行っている。また地域の他グループホームとの間に災害時の緊急連絡網を作り、連絡体制を築いている。(道南グループホーム協会Bブロック)		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。今、何を望んでいるのか入居者様の思いに沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、入浴を通し衛生的な身だしなみに努めている。また行事や外食等の際にはお化粧を手伝ったり、着ていく服を選んだり支援している。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々食べたい物の要望等を聞いたり、調理や食事、片付けを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量等を記録し、入居者様の嚥下状態に合わせ食事形態の工夫をしたり、食べ易い物へ変えたりして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また夜間の義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、入居者様一人一人の排泄パターンの把握や、声の掛け方のタイミングの工夫をし、排泄を定期的に促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し排泄パターンの把握に努め、食事や乳製品の飲み物の提供や体操などを行って頂きながら、予防に努めている。また、温罨法やマッサージ等も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の意向に即した入浴を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にとらわれずに休めるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師に指示及び、看護職員の指導等で服薬についての知識を深め、情報交換を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様との普段の会話の中から、好みの物事や昔楽しかった出来事、催し物の内容等をお聞きしたりして情報収集を行っている。又御家族様からの情報を元に支援している。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染予防の観点から、外出は控えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウィルス感染予防の観点から、外出は控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙(はがき)、年賀状、広報誌等で近況を報告し出来るように努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓、清掃により衛生的な環境作りに努めている。また季節毎に飾りつけを行い、季節感を実感出来るように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様がリラックス出来る場所を確保出来るように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の愛着のある物を持ち込んで頂くよう促している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理、清掃、洗濯等、御本人様が行える事は安全面を考慮しながら一緒に行えるように努めている。		

目標達成計画

事業所名 高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

作成日：令和 3年 3月 23日

市町村受理日：令和 3年 3月 30日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	災害時用入居者様別個人情報ホルダーを作成し整理していたが、入居者様の状態変化もあり、内容の見直しが必要である。	災害時用入居者様別個人情報ホルダーを見直し整備する。	入居者様のアセスメントを改めて行い、災害時用入居者様別個人情報ホルダーを新しく作り直す。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。